

2022 年 9 月 4 日（日）「愛より出^いずる御霊の実」

ガラテヤ 5:22-26

22 これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。

24 キリスト・イエスに属する者は、肉を情欲と欲望と共に十字架につけたのです。25 私たちは霊によって生きているのですから、霊によってまた進もうではありませんか。26 思い上がって、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのはやめましょう。

【序論】

今日の箇所、とりわけ 22～23 節は、ガラテヤ書の中でも最も美しい聖句です。前回は「肉の行い」（神の支配から離れた思いと行い）が次々と並べられ、それらと無関係には生きることのできない自分がいることを知っているだけに、読んでいて苦しい箇所でもありました。しかし、今日はもっと希望に満ちています。ここには、キリスト者が結んでいく「御霊の実」というものが挙げ列ねられているからです。私も何かと引用してきただけに、一度はきちんと学んでおく必要があった箇所です。「御霊の実」とは、聖霊の働きがあるところ結ばずにはおられない人格的果実を指します。では、期待をもって見てまいりましょう。

【本論】

これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。（5:22-23）

ここには 9 つの「御霊の実」が挙げられていますが、もちろんこれで全部だということではありません。「肉の行い」のときと同様、「その他このたぐいのもの」が多くあるでしょう。ですが、ここではテキストに集中し、挙げられたことば一つひとつの意味を探ってまいります。敢えて分類するならば、順に三つずつのまとまりとして見ることもできるでしょう。

本論 1. 愛、喜び、平和

(1) 愛 (ἀγάπη)

まず筆頭に「愛」が置かれているのは、9 つの「御霊の実」を代表するものだからで

す。I コリント 13 章全体では「愛とはこういうものだ」と教えられていますが、そこではほぼ「神」と置き換え可能となっています。I ヨハネでは「**神は愛だ**」と明確に言われている。神の霊が人に宿ると、人は神の愛を持つようになるのです。更に、ローマ 13:10 では「**愛は律法を全うする**」とも言われていて、私たちが語ること、行なうことの一つひとつに愛を加えるならば、神の御心に適う状態にあるということになるでしょう。神ご自身が活動しておられるのであれば、神の御心に適うのは当然とも言えます。

(2) 喜び (χαρά)

「喜び」は倫理的にこうあるべきというものではなく、通常は幸いな事柄に対するポジティブな反応を表すことばです。しかし、この人生には好ましくないこともたくさん降りかかってくるのであって、いつも喜びに満たされているということはなかなか難しい。しかし、パウロは I テサロニケ 5:16 で「**いつも喜んでいなさい**」と勧めています。これは、苦虫を噛み潰してでも笑っておれと言われているのではなく、神の愛に満たされているならば如何なる状況下にあったとしても喜んでいることができるという、愛の力を表しているのです。

(3) 平和 (ειρήνη)

訳の可能性として「平安」もありますが、その場合は「喜び」と同様、信者の心にある内的安らぎという意味になりそうです。一方「平和」と訳す場合、対人関係において平和をつくり出していくことを表すようになるでしょう。いずれにせよ、神より来る平安が他者に平和をもたらすという意味で、両者は不可分であります。

本論 2. 寛容、親切、善意

ここからはより徳目らしい内容になります。先の内容がどちらかというと人の内面に關わるものだったのに対し、ここからはむしろ隣人に向けられる態度が色濃くなっていく。

(1) 寛容 (μακροθυμία)

このことばは基本的に、罪に対する神の忍耐、裁きを遅らせる神の憐みを指します。神は、罪を罪として当然裁く方として恐れられるが、罪人が滅びることを願わず、悔い改めるチャンスを与えておられる。興味深いことに、箴言のギリシャ語訳でこのことばが出てくるとき、人が人に対して寛容を示す意味で使われているのです。その人は神の愛を知っていて、神の愛をもって人と関わっているということになるでしょう。

(2) 親切 (χρηστότης)

「倫理的な良識、完全性」「優しさ、親切」といった意味を持つことばです。人に対して親切であろうとすると、どこにおいても同じ態度でありたい。人に見られているところだけでなく、家庭内においても。愛はこのところで一貫性を与えるでしょう。

(3) 善意 (ἀγαθωσύνη)

「親切」と似ていますが、「心と生活においてまっすぐであること」という意味も含まれることばです。見えるところだけでなく、心の内面からその行動がにじみ出てくる。愛はそのようになさしめるのです。

本論 3. 誠実、柔和、節制

(1) 誠実 (πίστις)

本来「信仰」と訳されることの多いことばですが、「誠実」と言われるとき、隣人に対して嘘・偽りなくあろうとすることがイメージされるでしょう。「偽りなき真実」「変わりなき真心」。どんなに小さな約束であっても守り通そうとする誠実さ。そこに信頼関係は構築されます。

(2) 柔和 (πραότης)

山上の説教の中で主イエスは「柔和な者は幸いである。彼らは天国を相続する」(マタイ 5:5) と言っておられますが、ここで使われている語と語根が同じです。「柔和」とは、「敵意」「争い」「怒り」などを廃絶していくことであり、ただ優しいということではなく、自分自身の中での愛に基づく戦いが伴うものです。その人は争ってもよい場面で、敢えて争わずに問題を解決していく道を選択する柔軟性を持っている。

(3) 節制 (ἐγκράτεια)

最後になりましたが、これは「自制」とも訳されることばで、パウロの時代にはギリシャ哲学において称賛された美德です。「節制」と言うと、やや禁欲的なイメージが持たれやすいかもしれません。暴飲暴食を避け、慎ましい生活を心がけることが、結果として人の肉体・精神の健康を良好にしていくようです。愛を基とした「御霊の実」は、最終的にそこにも行き着いてしまう。パウロが教える愛の結果は、信仰を持っていない人々も追い求めているものと言えるでしょう。

【展開】

以上、9つの徳目を見てまいりましたが、神の愛が自分の内で力強く働くことによって、これらの「御霊の実」が自分の人格に一つひとつ宿っていくことを願い求めたい。

ところで、23節の最後のところで「**これらを否定する律法はありません**」と言われている点が気になります。前にもお伝えしましたように、律法と御霊の目指すところは同じなのであって、それは人を肉の欲から解放するということです。しかし、両者のアプローチの仕方は真逆だと言ってもよいでしょう。律法はこのような悪循環をもたらしてきました。神の基準に照らして人の生き方を監視する → 人は常に戦々恐々としながら、できていない自分を責める → 律法を与えた神を愛せない。ところが、御霊のアプローチはこれとは全く異なり、まず罪人を丸ごと包み込んで罪の赦しを与え、赦しの神を愛する者としてしまう。すると、不思議なことにその人は受け取った神の愛に生き、神の愛に突き動かされながら律法の求めるところを全うしていくのです。御霊の実を宿すところには、神と人を愛するという律法の目的が成就されているのです。

このことは、教育の現場においても豊かに適用されるのではないのでしょうか。私のささやかな経験をお話しさせていただきますが、私は高校時代、教師たちによる暴力にやや萎縮した学校生活を送っていました。男子校でしたので、教師陣も舐められないように常にピリピリしていたように思います。教室に怒声が響き渡ることはしょっちゅうでしたし、同級生が殴られている姿をよく見ていましたので、自分の生活態度もそれによってギュッと規制されていたと言えます。実は、私も誤解されて他の生徒と一緒に殴られたことがありました。そのように、恐れに支配された学校生活には自由がなく、必然的に「殴られないように」という消極的な服従心から担任と接するようになっていました。

しかし、大学に入り、そこで出会ったクリスチャンの先生方から受けた愛によって、私は解放されていったのです。まだあらゆる面で実力のない自分を信じて用いてくださる先生がいる。良いところを見つけて褒めてくれる。無責任なことをしていると、研究室に呼ばれ、お茶を出され、「お前ともあろう者がどうしてあんなことをしてしまったんだ」とやさしく聞かれる。愛されるとき、上から押さえつけられることでは決して経験することのなかった悔い改めが自分の中に生じたことが分かりました。私が変わられたのは愛によるのです。そして、私にそのような愛を注いでくださった先生方も、キリストの愛を受けていたのです。

【結論】

今日は24節までとさせていただきます。御霊の実の数々の基となっているのは神の愛です。この愛に捉えられるとき、私たちは神を愛するようになる。そして隣人とのあり方も変えられていくでしょう。内住の御霊の働きを妨げるものは取り除かなくてはなりません。それが、前回扱った「肉の行い」であり、次回もう一度確認することになる「情欲」「欲望」「思い上がり」「挑み合い」「妬み合い」といったものです。これらに支配されないように自分を打ち叩くことよりも、主の御霊に満たされることに集中したい。人を真に造り変えることができるのは神の愛だけである。今日はそのことを深く心に留めたいと思います。

【祈り】

御霊なる神様。私たちを主の愛で満たし、肉の支配より解放してください。多くの御霊の実を結ばせ、心から主イエスを愛し、隣人に対して誠実を尽くす者とならせてください。そのように造り変えられていく自分を見て、無常の喜びに溢れることができますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
十字架より流れる愛により、人を喜びと平和で満たし給う、主イエス・キリストの恵み、
隣人に対し、心からの寛容、親切、善意を向けさせ給う、父なる神の愛、
誠実、柔和、節制をもって、肉の欲求に勝たせ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に限りなくあらんことを。